

2025  
年度

# 高口光子の 元気が出る介護塾

さかのぼって  
録画受講  
もOK!

## 開催要項・申込方法

- ◆開催日：2025年5月～2026年2月（毎月1回開催）
- ◆受講方法：オンライン（後日録画配信あり）
- ◆対象：介護現場に関わる専門職
- ◆受講料：各回 5,000 円
- ・全 10 回前納一括払い 47,000 円（ブリコラージュ読者 45,000 円）
- ・施設でお申し込みの場合の団体割引 1 施設 120,000 円（税込み）
- ※団体割引：受講者の数に関係なく受講できる 1 施設あたりの金額です。
- 職場の研修としてご利用ください。
- ※ 終了した講座は録画で一定期間受講することができます。

- ◆問合せ先：有限会社七七舎
- ・TEL 03-5986-1777
- ・メールアドレス web@nanasha.co.jp
- ◆申込先：有限会社七七舎へ
- ・ホームページから

七七舎

## やりたい介護実現マガジン Bricolage

ブリコラージュ（Bricolage）は  
介護の情報交流誌。  
ケアの現場に軸足を置き、  
介護職がつながる場をつくって38年。  
SNSでは築けない  
個と個がつながる  
「関係」と「場」を提供しています。

Bricolage は……

- ◆年 6 回発行（奇数月）・48 ページ・1 冊 671 円（10%税込み）
- ◆介護塾受講料割引、セミナー割引など特典がいっぱい！
- ◆お申し込みは

七七舎



2025  
年度

# 高口光子の 元気が出る介護塾

全講座で  
認知症ケア専門士 3 単位  
取得できます  
法定研修に対応

受講生の声  
自身の行動を  
見直すきっかけに  
なりました。

受講生の声  
高口さんの  
「愚痴を言ってもいい」  
という言葉に  
救われました。

受講生の声  
今悩んでいることに  
すぐ使える  
内容でした！

受講生の声  
オンラインのおかげで  
夜勤明けでも  
受講できました。  
後日視聴できることは  
ありがたいです。

「よい介護」は一瞬一瞬の積み重ねです。  
現実には手ごわいので、たえず確認し伝え続けていかなければ、  
「よい介護」を守りきることはできません。  
だから、働く職場の仲間と一緒にセミナーに参加して  
「人を思う気持ち」「よい介護」を再確認して  
共有することが必要なのです。  
この介護塾では仕事としての介護のために、  
職場で伝わる言葉・文章・図表をテーマ別に示し、  
さらに録画で配信します。  
目で、耳で、何度でも確認してください。  
言葉が通じて、思いが共有できる職員が 3 人いれば、  
職場は変わります。

## Profile

高口光子（たかぐち・みつこ）

介護アドバイザー  
理学療法士・介護福祉士・介護支援専門員

老人病院に理学療法士として勤務後、特養ホーム、老人保健施設など老人ケアの現場を経て  
2022 年独立、フリーの介護アドバイザーに。

40 年余にわたる現場での経験を体系立てた「元気が出る介護塾」をメインに、  
介護現場を元気にするため、八面六臂の活躍中。  
NHK テレビ出演のほか、著書多数。

★高口光子の元気でる介護研究所  
<https://genki-kaigo.net/>



2025  
年度

# 高口光子の 元気が出る介護塾

全講座で  
認知症ケア専門士3単位  
取得できます  
法定研修に対応

全講座  
動画配信！  
即役立つ  
テキスト付き！

Program  時間：13:00 ～ 16:30

第①講  
5月30日  
(金)

## 介護現場のコミュニケーションⅠ

どうして私たちは認知症の人に振り回されてしまうのか

- 何のための仕事(ケア)か、言葉で共有できていますか
- どうして私たちは認知症の人に振り回されてしまうのか
- 2:6:2の法則
- 生活モデルとは何か—医療モデルから生活モデルへ
- 出勤したくない職場—共存をとらえよう



第②講  
6月27日  
(金)

## 介護現場のコミュニケーションⅡ

どうして職種間のコミュニケーションはうまくいかないのか

- 「多職種」とはどんな職種か
- 連携のすすめ方とコツ
- 看護・介護・リハ・栄養・事務・相談に、もっと伝わるコミュニケーション
- 上司・部下・同僚とのコミュニケーション
- 多職種で認知症の人を中心にしたチームケア体制をつくる

第③講  
7月25日  
(金)

## 認知症ケアを見直そう

5ステップで学ぶ、認知症の人への声のかけ方接し方

- 「うまくいった」は、おとなしくさせること?
- 行動・心理症状(問題行動)と問題のあるケア
- プロの介護とは
- 認知症ケアが「上手な人」と「下手な人」との違いを考える
- 改めて、認知症とは何か
- 介護は「重い・汚い・わからない」に挑む



第④講  
8月29日  
(金)

## 不適切ケアと身体拘束廃止

どうして私たちは「悪いケア」を注意できないのか

- 不適切ケアが虐待に至るまで
- スピーチロック
- 不適切ケアとは—不適切ケアの実際を職場で共有する
- 認知症の人への不適切ケアが注意できるからこそ充実する  
職場のつくり方—勉強会の開催
- 不適切ケアを繰り返す職員との関わり方

第⑤講  
9月26日  
(金)

## こうすればできる身体拘束廃止

どうして私たちは縛ってしまうのか

- 身体拘束がはじまるとき—ついついやってしまう「不適切ケア」を考える
- 常態的身体拘束とは
- 身体拘束廃止に向けて
- 介護職が意思をもつ—「私たちは縛りたくない」を人数のせいにはしない
- 「認知症の人は縛らないと転びますよ」に本気で向き合う
- 家族が「しばって欲しい」と希望したら……



第⑥講  
10月30日  
(木)

## 施設・チームで取り組む虐待防止

認知症ケアのリスクマネジメント

- 私たちに「介護ストレス」が発生する構図を知る
- 虐待が発生した時まずやるべきこと
- 虐待防止でやるべきこと
- その認知症の人のケアが虐待になっていないか振り返ろう



New!

第⑦講  
11月27日  
(木)

## 家族からのカスハラをどうする?

クレーム・苦情・カスハラの違い

- クレーム・苦情をトラブルにしない
- カスハラとは何か(厚生労働省:ガイドライン、ハラスメント対応マニュアル)
- 具体事例の紹介(動画)

第⑧講  
12月12日  
(金)

## 家族とともに取り組むターミナルケア

最期まで見届ける介護の意味とその根拠

- 法律・契約に基づいた「家族」への説明
- QOLを向上するためにICFを活用する
- 法的根拠を整える
- 家族の心情時期を想定した体制づくり
- お年寄りの生活歴の把握
- 家族間の関係から考えるターミナルケア
- 入所からターミナルまで家族の変化を受けとめた関係づくり
- 「ここでもよかった!」と互いに思える認知症の人の家族と共につくるターミナルケア



第⑨講  
1月30日  
(金)

## 「人手不足」にどう取り組むか

何か足りないのかを見極める

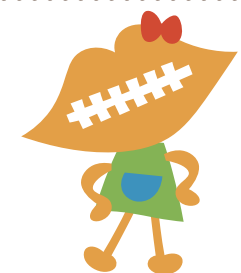
- 足りないのは人材ですか? 人数ですか?—働きやすい職場にするために人手不足を分析しよう
- 一般的な人材育成の流れ
- 管理者・現場職員の言葉を整理しよう
- 職員を育成レベルから見極める—悪い職員の見極めと指導法(見切り・決断・タイミング)
- リーダーの育つ流れ
- 人を育てる全体像
- 認知症の人から学び、成長するチームと環境づくり

第⑩講  
2月27日  
(金)

## 新人の育て方とチームづくり

新人育成担当者を決めて育てる

- 「何人雇っても辞めていく」その原因は?
- プリセプターシップを使った新人スタッフの育成
- 年間研修計画を立てよう—新入職職員の育成ポイント
- 認知症ケアを苦手にしない新人育成



## 高口光子

を施設に呼んで、  
あなたの施設に「今」必要な  
研修を行います。

介護を体系立てて学ぶ「高口光子の介護塾」。  
でも、施設によって置かれた状況はさまざま。必要なスキルもさまざまです。  
介護塾をあなたの施設に合わせてカスタマイズ!  
七七舎では、法定研修を始め、よい介護を実現するための研修プログラムを  
各種用意しています。詳しくは、**七七舎**まで。

TEL  
**03-5986-1777**  
メール  
**web@nanasha.co.jp**  
お気軽にご相談ください。